

PARK LIFE



1.2.田植えや稻刈り指導役は西古佐自治会の方々だ。3.4.[赤米おにぎり:多紀小学校3年生 2024年2月13日] おくどさんで赤米入りのお米を炊く/熱々の炊き立てご飯でおにぎりづくり
5-9.[黒豆味噌づくり:2023年2月12日] おくどさんで黒豆を蒸す/蒸した黒豆を袋の中に入れてつぶす/米こうじとつぶした黒豆を混ぜ合わせる/厚手のポリ袋に入れていく

**森 正樹さん
久保木 利明さん
(西古佐自治会)**

公園入口から並木の間を抜けて坂を上がる。その途中、左手に見えてくるのが、公園施設のひとつでもある「棚田」だ。V字に切り込まれた谷筋に3段ほど。大きさは3つあわせても約1,300平米と決して大きな田ではないが、開園前から赤米をはじめいろいろな作物を育て、収穫物をプログラムに活用してきた。その棚田のお世話係は代々、西古佐集落に住む方々が担当されている。今年、棚田のお世話をお願いする森さんと久保木さんに話を聞いた。

これまで棚田では赤米、黒豆、ジャガイモやサツマイモなどを育ててきた。中でも「赤米」は、品種を変えながらも開園前からずっと作り続けている定番作物。その昔、「丹い稲穂が波のように揺れている」から、この地が「丹波」という地名が付けられたとも言われ、その由来にあ

やかりこの公園でも赤米を育てる事になったのだ。

「とにかくいちばん気を付けていることは、子どもが裸足で入ってもケガのないように、ということですね」と森さん。赤米の田植えと稻刈りは、公園プログラムのシンボル的存在にもなっている。そして田植えのだいご味のひとつが、裸足で田んぼに入った時の、ひんやりとしたその感覚。しかし裸足で入るからこそ、小さな石でも尖ったものがあれば、ケガにつながりかねない。森さんは「毎年毎年、小石を取り除いているんだけど、なかなかなくならないね」と言いつつも、「それでも長靴で田んぼに入ったほうが転んだりして危ないしね。とにかく地道に見つけた石を出すだけですよ」と教えてくれた。

「今年はいちばん下の田んぼに赤米を植えて、真ん中に黒豆、そしていちばん上の畑ではサツマイモを作る予定です」と今年の計画について話してくれたのは、久保木さん。森さんと協力して、これら3段の畑の田起こしから田植え準備や水の管理と稻刈り、豆の定植やサツマイモのツル植え、そして日々の草刈りから収穫までを2人で分担して作業する予定だ。「何年か前まではウサギに“豆の苗を食べられた！”とか、イノシシやシカ

に畑を荒らされたり、いろいろ大変だったね。けれど、獣害柵を設置してからは、なんとか作物は守られるようになってきましたよ」。周辺の田畠でも起きる獣害被害は、並木道中央公園でも深刻な問題なのだ。

ここで収穫された作物は、いろいろな姿に形を変え、来園した方々に提供されている。特に最近では、黒豆味噌づくり(2023年2月12日)や、赤米おにぎりづくり(2024年2月13日)など、かやぶき民家にあるおくどさんを活用したプログラムが多数実施されている。田植えを待つ春の棚田、熱い日差しを受けて育つ青々とした稻や黒豆、そして真っ赤な稻穂が揺れる秋と、棚田は公園に四季のめぐりを伝えてくれる、大切な存在だ。そして、その棚田は、縁の下の力持ちのサポートがあつてはじめて成り立っている。



久保木 利明さん(左)
森 正樹さん(右)